

久しぶりに良い町を見た、という気がするので、一寸書いて見る気になりました。20代の頃はもの珍しさから、あちこち進んで出張したのですが、40歳を過ぎた頃からは日本中どこへ行っても同じようなもので、想像を越えるものはないという感じになり、できれば遠出しない方針でやってきました。今回たまたま田中真穂さんのご招待を受けたのと、何事にも興味が湧かない精神状態に陥ったため、少し気分を変えてみるかとういことで諏訪出張を決めました。

諏訪は一言でいえば、独特の雰囲気を持った町でした。独特の雰囲気を持っている町としては京都や萩がありますがそれらは過去の遺産によるもので、現在生きている人たちが雰囲気を作っているという感じはありません。今の住民が雰囲気を作っている町としては私の知る所、金沢と諏訪のみです。金沢の雰囲気を紹介するのは簡単です。凜（リン）とした町だ、で全てを言い尽くしています。さすが加賀百万石の城下町というところです。背筋がぴんとするのを覚えます。

そこへいくと諏訪の雰囲気を一言で伝える言葉は見つかりません。今回の旅は意外性の連続で私を楽しませてくれました。私の経験した意外性を紹介しながら、諏訪独特の雰囲気を浮き彫りにしてみたいと思います。

最初の意外性は長野新幹線です。諏訪行きを決めた理由の一つは長野新幹線に乗ってみたいということでした。早速時刻表を取り出し、どれくらい時間がかかるのか調べようとしたのですが諏訪駅はありません。もう一度時刻表の地図を確認した所、線が違います。長野は全て長野新幹線上にあると思っていた認識の低さに驚きました。そこで不安になったのは、新幹線じゃないとするとひどく時間がかかりそうだな、ということでした。しかしこの心配もすぐに吹っ飛ぶことになります。新宿からわずか2時間強だということがわかりました。意外と東京に近いんだ、というのが2つ目の驚きでした。

次は諏訪湖です。私の中の諏訪湖のイメージは、摩周湖のようなものでした。周りが山に囲まれて、水は高い透明度を誇り、周りには何もなくて、ただ一つセイコーエプソンの白い建物だけが森の中に建っている、という。諏訪に到着後早速諏訪湖におもむいた私はビックリしました。諏訪湖の周りは隙間なく建物が建っているし、あの有名な諏訪湖にしては湖が小さく思えます。私の家のそばの手賀沼の方が広いんじゃないかなと思うくらいです。あまりに不思議なので家に帰って地図帳で調べたところ結構面積は広いのでますます不思議になります。湖の形が円に近いので小さく見えるのかもしれませんが。水の透明度も北海道の透明度には及びそうにありません。ただ、それだからといって、不快感はありません。というより何だか暖かさを感じさせるものでした。周囲の山と建物のバランスも絶妙です。湖の周りの旅館も目立たず、よくある観光目的の

温泉街のイメージはありません。周辺の山のはるか遠方に雪山が見えるのも素晴らしい。ひんやりした冷たいイメージを持っていた私にはなんとなく心地よい湖でした。

諏訪大社も予想外でした。私は諏訪の町が諏訪大社を頼りに存在していると予想していました。大社の周りにはおみやげ物やさんが山のようにあり、客の奪い合いを演じている、といったものです。ところが諏訪大社は、町の人あまり頼りにされているように見えません。諏訪大社で生計を立てている人の割合は非常に低いものと思われます。客を争う様子もありません。（天気が悪かったせいもあり）大体客がほとんどいませんし、特別の売り物もあるように見えません。これは、私に大変良い印象を残しました。おみやげ物に頼っていると何だかガツガツした感じになり品のない町になります。

大社自体も意外の連続でした。最初に下社に行きましたが、建物と御柱は予想外に小さく、しめ縄は予想よりも大きい。せっかくなのでよくテレビで見る御柱を崖から落とす現場を見に行きました。下から見るとそれほどでもありませんが、上から見ると断崖絶壁で、そこを御柱に乗って降りる人がいるとはとても信じられません。はじめ、その場所をタクシーの運転手さんが、蹴落としと呼んでいるように思えたのですが、翌日本落としだと分かりました。上社もユニークでした。御柱の大きさは下社と大体同じですが、その横に生えている樹木の大きさにビックリします。山全体が社という感じで、神の国といった感じがします。一寸妙だったのは上社という私の発音が諏訪の人に通じないことです。力に変なアクセントをおかないと通じません。タクシーの運転手さんは、祭りが近づくと諏訪の血が騒ぐんです、と言っていました。血は騒ぐけど、大社に寄りかかったりはしない、あらまほしき関係です。

武田信玄に対する扱いも意外でした。私は、諏訪氏を滅ぼしたので悪役になっているかと思っていましたが、少なくとも大社では、大社を保護した人とされ評価されているようでした。町の人はどう思っているのかを聞いてみたいところです。もう一つ町の人に聞いてみたかったのは、上社と下社の関係です。私は上社と下社は諏訪を左右から守っているのかと思っていたら、昔はえらい喧嘩をしていたようです。もしかすると、上諏訪と下諏訪は今でも仲が悪いのかな、ということ。

再び市街地に戻ると、エプソンはじめハイテク会社が意外と多いことに気づきます。有名な会社の支店があったり、コンピュータを沢山並べた会計会社があったりといった感じで、ハイテクの町という感じがします。この辺りが、町の人に自信とゆとりを与えているのだと思います。さすが教育県。

文化的投資も盛んなように思えます。美術館がいくつもあり、ガラス芸術の美術館もよかった（5000 円のビヤグラスを買ってしまった）し、そのとなりの

美術館あったにキーリング（名前は多分間違っている）とかいう人の描いた絵は素晴らしかった。結構すばらしい絵が何点もあり、800 円は高くないものでした。ただ、最後に行った諏訪市美術館は悲しい状態で、展示場のひどさが美術品を泣かせています。特にロダンの手と足という小さな作品には、かなしくなってしまう。あれは何とかして欲しい。浜田泰治美術館は、さすが人気画家だけのことはあり、多くの人が訪れています。あの暖かい感じが諏訪そのものといった感じです。美術館の2階のレストランから見る諏訪湖は絶景で、泰治の絵そのものです。あの風景が彼を生んだと言えそうです。

わずか2日の滞在の間に諏訪の人から受けた優しさや親切さも印象的です。値段が予想より高くなり途中でメータを切ってくれたタクシーの運転手さん、諏訪二葉高校の先生、雨でびしょぬれになった時タオルを貸してくれた蕎麦やおばさん。高い酒とビールを買ったら、申し訳なさそうに値引きしてくれたおばあさん。

たった2日の印象なので間違い勘違いも多いかと思いますが、私の感じた“諏訪の持っている独特な雰囲気”、暖かさ、おおらかさ、やさしさ、自信、余裕、インテリジェンス、のバランスがよく取れた雰囲気、分かってもらえたかしら。